

4 内因性アトピー性皮膚炎の性差

Gender differences in “intrinsic” atopic dermatitis

野老翔雲

TOKORO Shoun

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
皮膚科学分野

井川 健

IGAWA Ken

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
皮膚科学分野准教授

Summary

アトピー性皮膚炎(AD)は、遺伝、環境因子などを背景に、掻痒を伴う湿疹病変をくり返す不均質な疾患であり、病因・病態はいまだ不明な点が多い。近年、ADを、血清IgE抗体値が低く、特異的IgE抗体が陰性の内因性ADと、血清IgE抗体値が高い外因性ADの病型に分類する試みがなされている。臨床症状のみでの病型の鑑別は困難な場合が多く、外因性ADが全体の約80%、内因性ADが残りの約20%を占めるとされている。内因性ADが独立した疾患であるかについては議論があるが、内因性ADの特徴としては、①女性に多い、②発症年齢が遅い、③重症度が低い、④金属アレルギーの合併が多い、⑤フィラグリン(FLG)遺伝子変異が少ない、⑥Th1型の反応優位、などが報告されている。内因性ADが女性に多い理由としては、装飾品や化粧品に含まれる金属の経皮感作や性ホルモンの影響が考えられる。

内因性アトピー性皮膚炎 (intrinsic atopic dermatitis)

アトピー性皮膚炎のなかで血清総IgE抗体値が正常で、特異的IgE抗体やプリックテストが陰性のサブグループ。独立した疾患であるかについては議論があるが、女性に多く、金属アレルギーの合併が多い。FLG遺伝子変異は少ないとされる。

IgE

1966年石坂公成・照子夫妻が発見した免疫グロブリンの一種。アレルギー疾患(I型アレルギー)や寄生虫疾患で高値を示す。特定の抗原に対して上昇する特異IgE抗体と抗原が明確でない総IgE抗体がある。

KEY WORDS

内因性アトピー性皮膚炎 / IgE / 金属アレルギー / 女性優位 / フィラグリン遺伝子変異